

国際関連ニュースにおける東アジアへのイメージ

—台湾と日本のテレビニュース番組の比較分析—

LI Chiou-ping

1990年代からインターネットをはじめとした情報通信技術が急速に発展し、現代のユビキタス・ネット社会を実現するに至っている。グローバル化する現代社会において、世界中の出来事は、政治経済、社会問題などを中心にニュースとなり、地球上で生活している多くの人々に伝えられ、受け止められると、それらはますます重要なものとして認識される状況がみられている。

また、世界の人々がテレビ視聴を通して、世界各国の社会や文化への理解促進、偏見の存在に気付くことも必要だろう。その意味において、テレビメディアは視聴者に自己帰属、アイデンティティの形成、また、生活する社会を築く上で影響を与えているとも指摘される。

アジアにおける日本と台湾は、それぞれの社会、政治システム、歴史文化において異なっているが、他方で、同じアジア諸国の一員でもある。その中で、アジア諸国への関心や注目点にかかわって、どのような相違がみられるだろうか。本論文は、日本と台湾のテレビメディアが、どのように国際ニュースを報道しているかを研究することで、その実相を明らかにしようと試したものである。

第1章では、台湾と日本のマス・メディアとインターネット・メディアに至るまでの放送の歴史と発展、現代のメディア状況について示し、その上で、近年の台日のニュース報道に対する批判、問題にも言及した。これにより、台湾と日本のジャーナリズムやテレビニュース報道にかかわる課題を浮かび上がらせた。

第2章では、ニュース報道の分類と東アジアの国際ニュース報道にかかわる先行研究をレビューし、台湾と日本のテレビメディアの国際関連ニュース報道の傾向、公共放送と民間放におけるメディアの公共性、メディアの社会的機能を明らかにすると、論点を導出した上で、以下の研究課題を示した。(1)台日のテレビメディアのニュースジャンルと国際関連ニュースへの重視傾向、(2)台日のテレビニュース番組でみられる国際ニュース報道傾向、そして(3)台日の公共放送と民

間放送テレビ局の公共性の3点を明らかにすることである。

第3章では、先行研究で分類されたカテゴリーを参照し、本論文の調査手順について記述した。第4章では、第2章で確認した理論や台日のテレビメディアの報道傾向をもとに、三つの研究課題を検証し、結論では、研究結果をもとに考察を行っている。

本論文で得られた知見だが、(1)台湾と日本のニュース報道状況とニュースの重点については、台日の公共放送テレビ局がハードニュースを重視する傾向がみられた。一方、日本の民間放送は、ハード、バイオレント、そしてソフトニュースの報道について、特に顕著な傾向がみられなかった。また、台湾の民間放送では、社会で流行している話題、生活、医療などのソフトニュースを多く報道する傾向があり、暴力、犯罪事件などのバイオレントニュースにも注目する傾向がみられた。

次の知見として、(2)台日のニュース番組でみられる国際報道の傾向について、台日の四つのニュース番組ともアメリカにかかわる報道が一番多く、ほぼポジティブなイメージが打ち出される傾向がみられた。東アジア地域に対して、台湾の二つのニュース番組では、中国、日本関連報道が多く、中国のイメージはマイナスで、日本のイメージがポジティブに示される傾向がみられた。

一方、日本の二つの放送局が中国に対して報道する際、日本政府が挑発行動を続けている北朝鮮への制裁を訴える立場にそう中国と連動する中、この局面だけは、中国へのイメージが比較的ポジティブなニュアンスを伴って放送されていた。

最後に、(3)台日の公共放送と民間放送テレビ局の使命と役割については、台日の公共放送テレビ局が、それぞれ公的、社会的情報を取り上げる傾向が強く表れ、メディアの公共性に奉仕しようとする立場が感じられた。一方、特に台湾の民間放送テレビ局では、ニュースのソフト化が顕著にみられ、ニュースの情報源についてもインターネット、監視カメラ、そして車載カメラの情報が多くのニュース項目で利用・制作される傾向がみられた。

2016年のアメリカ大統領選挙から出てきた「フェイクニュース」は、情報の濫用、曖昧な言葉で誤解を招き、真実とウソとが共存するニュースの伝え方を指す。特に、インターネットで流れている情報の信憑性、倫理性の欠如問題として社会の関心を集めることとなった。本論文でみられた台湾のテレビメディアのニュース情報源、メディアの公共性などの問題は、台湾だけでなく、世界のニュースジャーナリズムにおいても同様に問われているとの指摘が、結論において示されている。